

第1領域「特色ある教育課程の事例研究」

兵藤 清一

本科目は、4名の教員（宮園、小久保、高木、兵藤）が担当し、16名の受講者を対象に実施した共通必修科目である。平成28年度後期は、新潟市立上所小学校を授業会場として実施した。

本科目の到達目標は、以下の2点である。

- ① 特色ある教育課程を構想・開発する力量形成を図る。
- ② 地域の特色や学校の教育課題に即した視点から教育的な効果のある地域資源を掘り起こし、魅力ある特色のある教育課程編成案を開発することができる。

1. 授業の実際

1) 「特色ある教育課程」の背景の理解及び事例研究

本科目は、まず、学校を基盤としたカリキュラム開発（SBCD理論）の考え方や我が国における教育改革の動向から、「特色ある学校づくり（教育課程）」の背景を探ることから始まった。それらを踏まえ、「これからの教育課程」の理念や役割について、中央教育審議会答申を読解し意見交流した。そして特定連携協力校等における「特色ある教育課程」の事例分析を通して、その在り方について意見交流した。また、地域と連携（地域の教育資源を活用）した「特色ある教育課程」の在り方について、新潟市教育委員会の取組事例（地域教育コーディネーター事業）を通して考察した。

2) フィールドワークを基にした「特色ある教育課程」構想案の作成

上記1)の後、院生は各自で、実習校における地域の特色・課題の分析と、地域の教育資源探求のためのフィールドワークに取り組んだ。その成果を基に、地域の教育資源を活用した「特色ある教育課程」構想案を作成し、互いの構想案を交流した。その際交流の視点として、①目標の明確性、②内容・方法の具体性・妥当性、③地域との協働の在り方等を重視した。

2. 次年度の改善に向けて

学校現場での教育課程編成作業の実際を考慮し、院生同士が協働して教育課程編成案を作成する方向で改善を図る。また理論と実践の往還を意識できるようにするため、教育課程編成の理念や編成原理に着目しながら教育課程の編成作業が行えるよう工夫していく。